

長基線電波干渉計のための 衛星時刻・周波数配信

情報通信研究機構 光・時空標準グループ

瀧口博士，雨谷 純，後藤忠広，
相田正則，市川隆一，近藤哲朗

内容

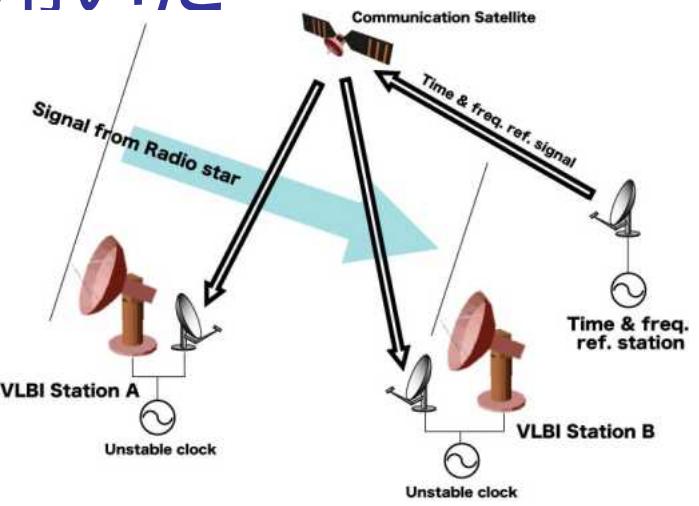
✓ 背景

- » VLBIとNICTにおける技術開発
- » VLBIにおける基準信号

✓ 衛星時刻・周波数配信を用いた長基線電波干渉計

✓ 位相補償を伴う相関処理

✓ 今後の予定

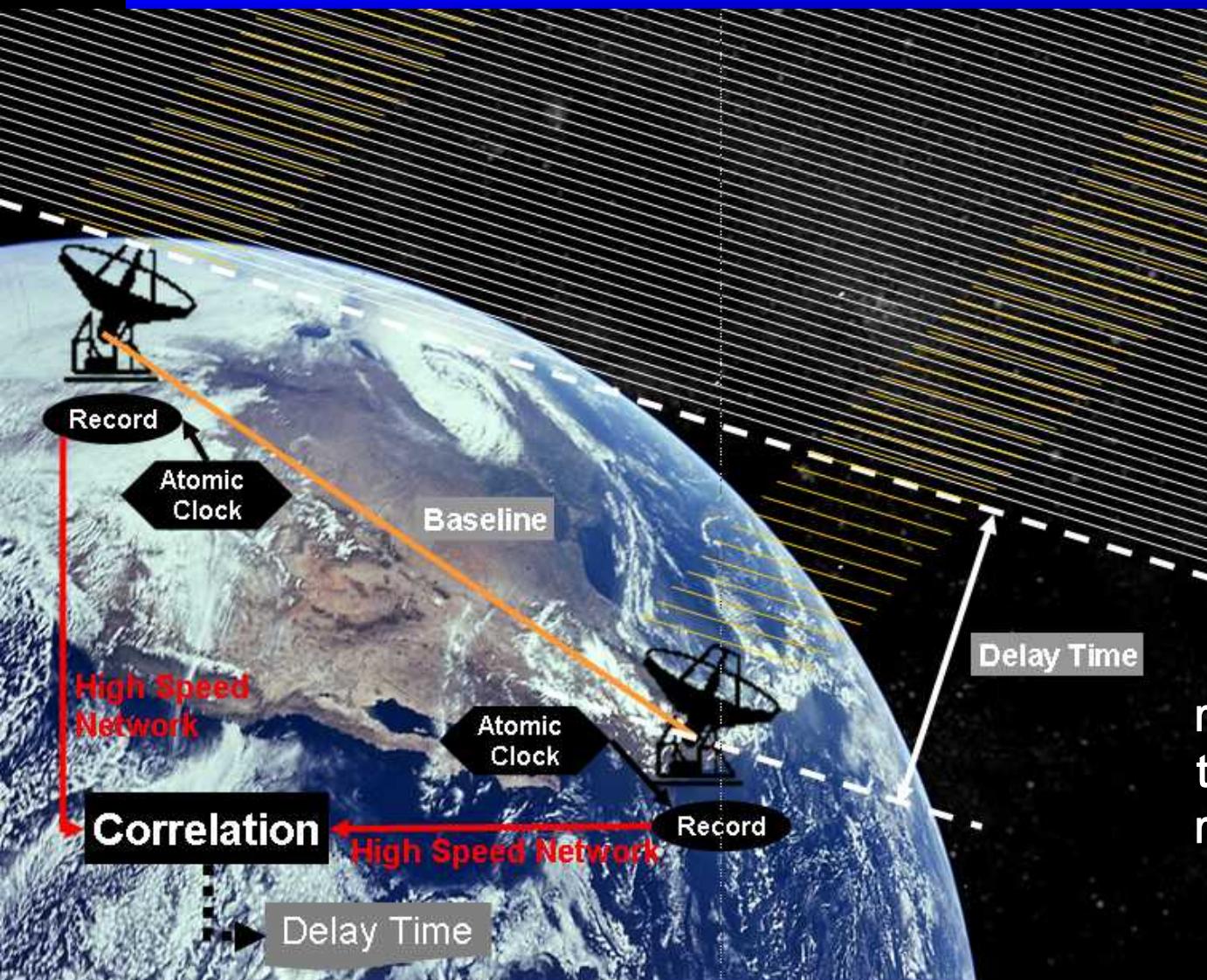




背景

VLBI

Very Long Baseline Interferometry



measure the arrival time delays between multiple station

背景

K5/VSSP32
ADS3000+
GICO3 前講演

✓ VLBIと
NICTにおける技術開発



巨大 & 高価

小型VLBIシステム
(MARBLE)
初日, 7番目の講演

基準信号
(水素メーザ)



→ 本講演

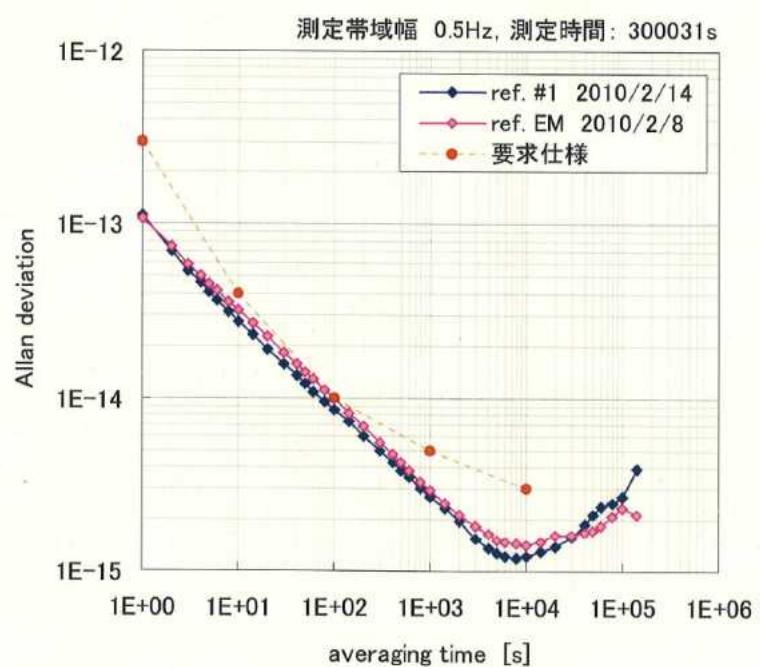
背景

✓ VLBIにおける基準信号

- 2地点以上の観測点で独立に同時受信・記録
- S(2GHz)/X(8GHz)の信号を中間周波数に
周波数変換
- » コヒーレンスの保持
 - 長時間積分
- » 高安定

水素メータ

約3000万円！



アラン標準偏差実測結果（参照用メータの周波数ゆらぎを含む）

衛星時刻・周波数配信を用いた 長基線電波干渉計

✓ 水素メーザ



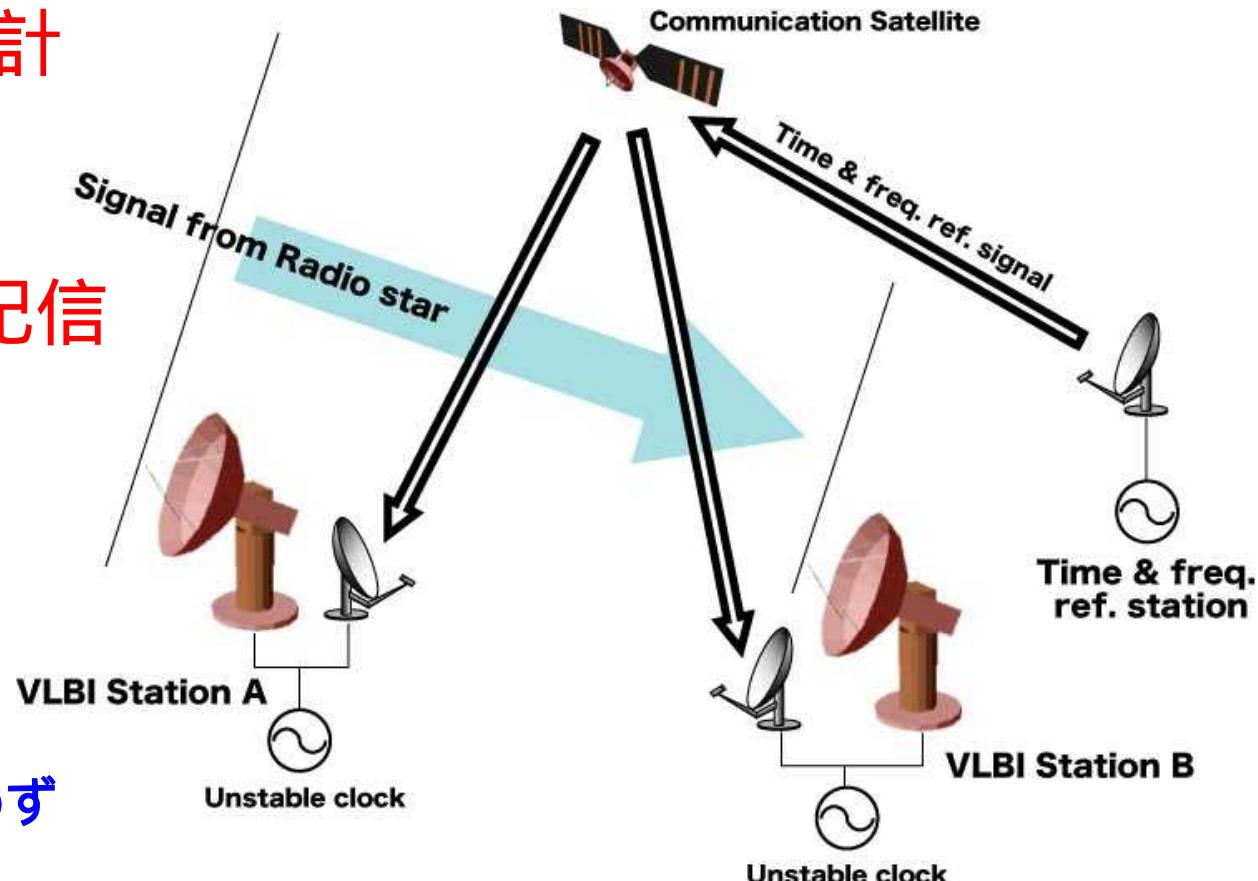
安い原子時計

+

衛星を用いた
時刻・周波数配信

- ・ 基準信号 → 静止衛星
→ 干渉計観測局
- ・ 時刻・周波数の変化を
相関処理の中で補正
→ 安価

特殊なハードウェアを使わず
ソフトウェアで



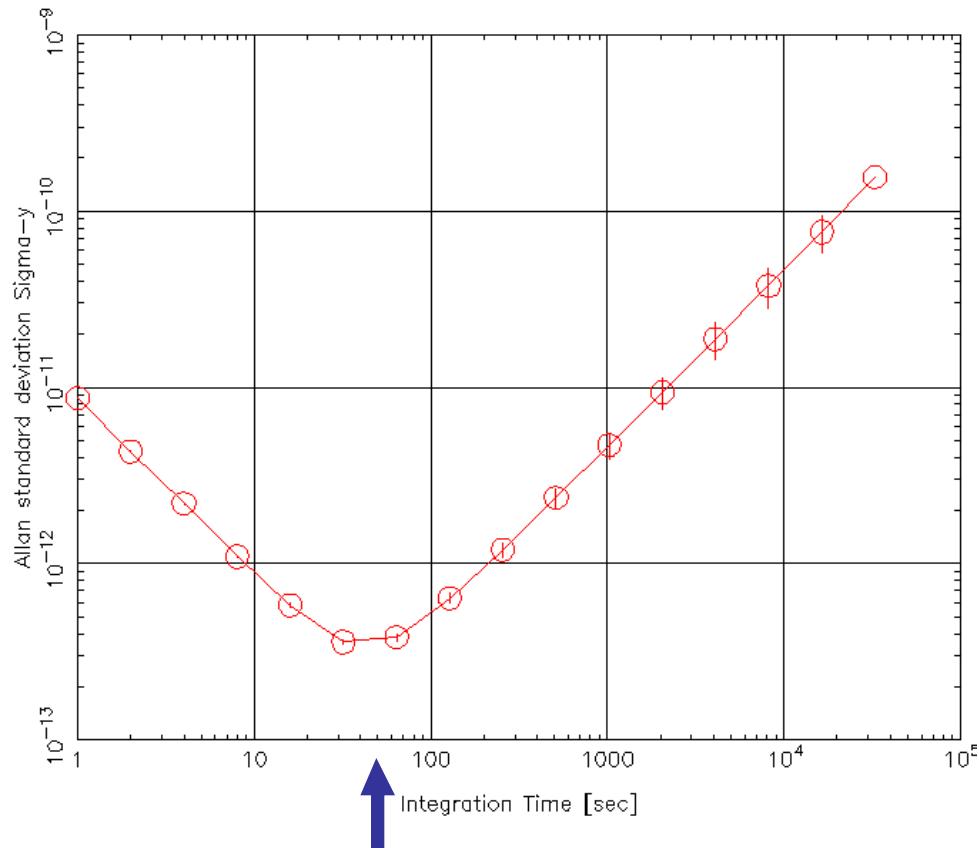
安価な原子時計

✓ 高安定クリスタル



オシロクォーツクリスタル
+
温度補償

約150万円！

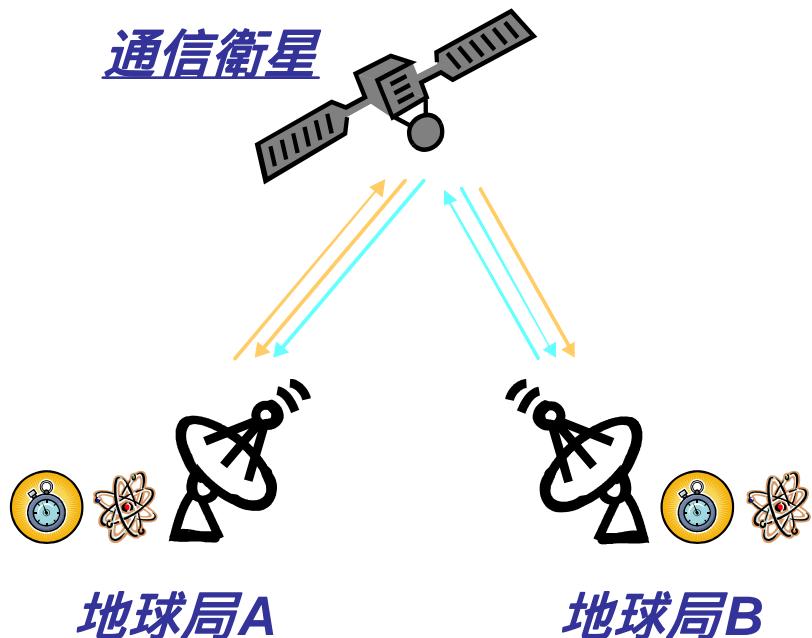


コヒーレンス保持可能

衛星時刻・周波数配信技術

✓ 衛星双方向時刻比較

(Two-Way Satellite Time and Frequency Transfer : TWSTFT)



各局が基準信号に同期した拡散符号を互いに送受信することで、伝搬経路上で生じる遅延を相殺し、高精度に時刻比較を行う方式。

比較精度: 10^{-15} @1日

衛星時刻・周波数配信を用いた 長基線電波干渉計

✓課題

- » 静止衛星位置
- » 静止衛星による時刻・周波数伝送
- » 位相補償をともなう相関処理
- » 時刻補償をともなう基線解析

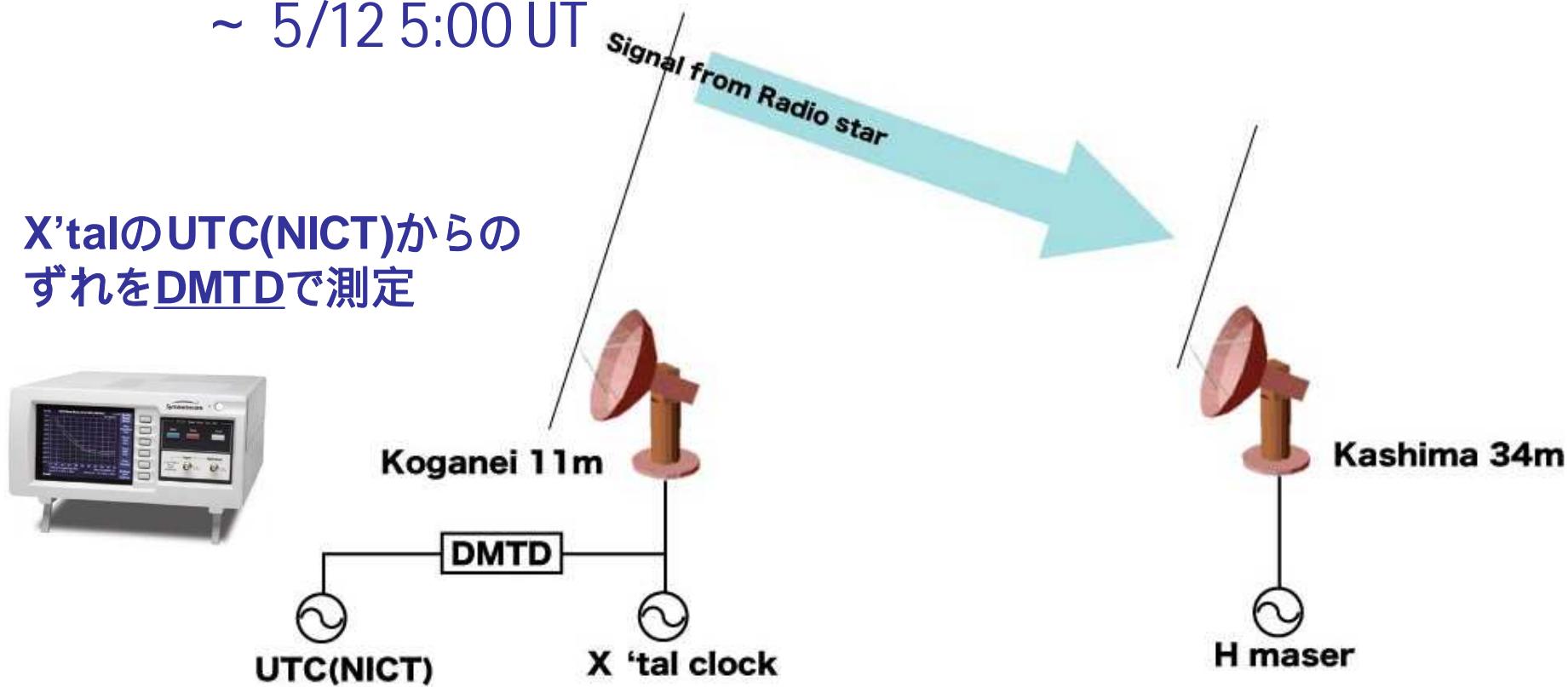
位相補償を伴う相關処理

✓ X'tal を使って 24 時間実験実施

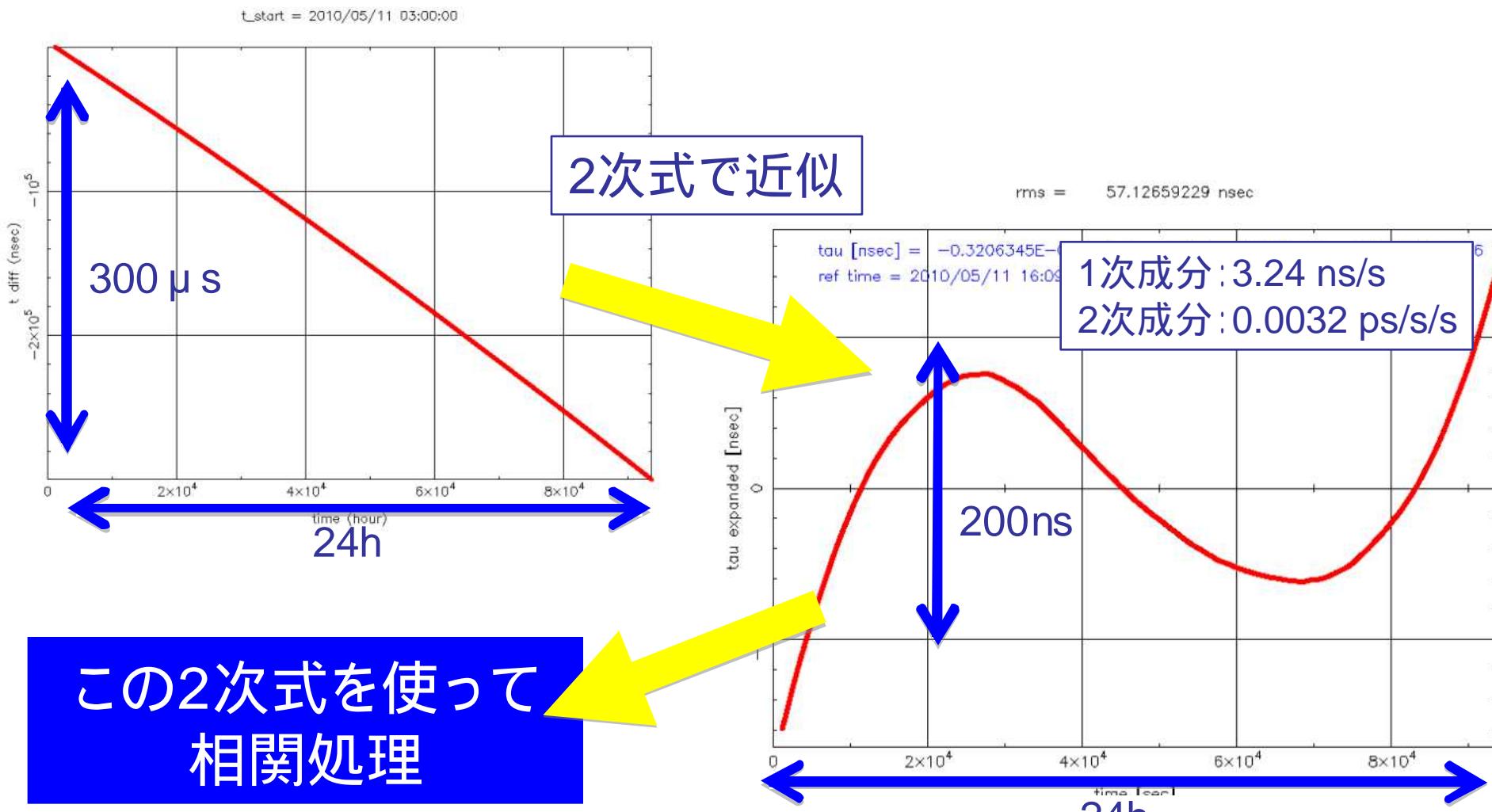
» 2010/5/11 4:00 UT

~ 5/12 5:00 UT

X'talのUTC(NICT)からの
ずれをDMTDで測定



24時間実験時の $X'tal$ のUTC(NICT)に対する動き

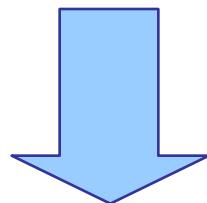


位相補償を伴う相関処理

- ✓ K5ソフトウェアを用いて相関処理
(従来のソフトウェアを使用)

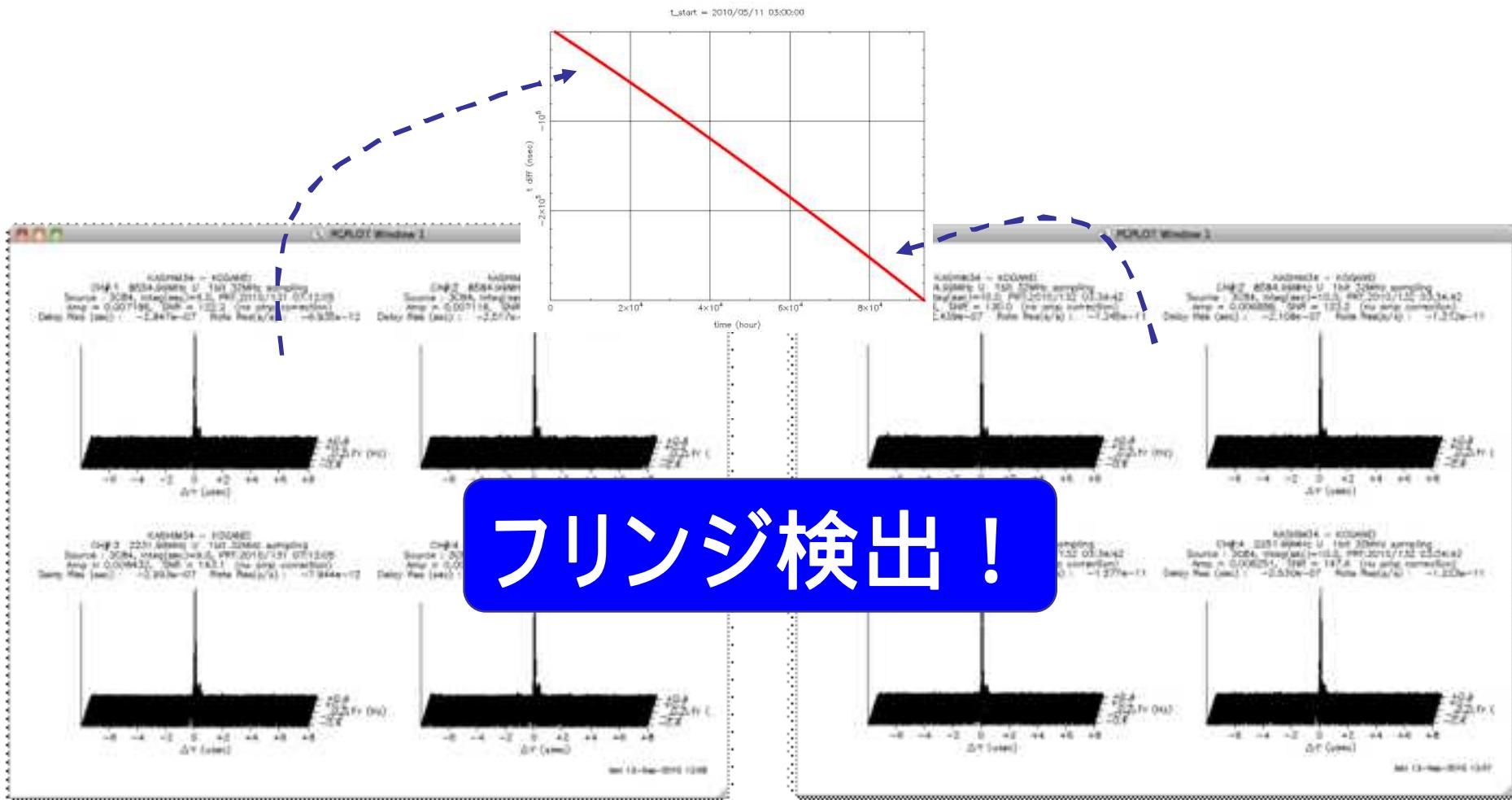
» apri_calc

» fx_cor



*apri_calc*で計算した
アプリオリ値をDMTDから
求めた2次パラメータを用いて
再計算したアプリオリ値に更新

位相補償を伴う相関処理



Pcal不調の為、バンド幅合成 基線解析は次回

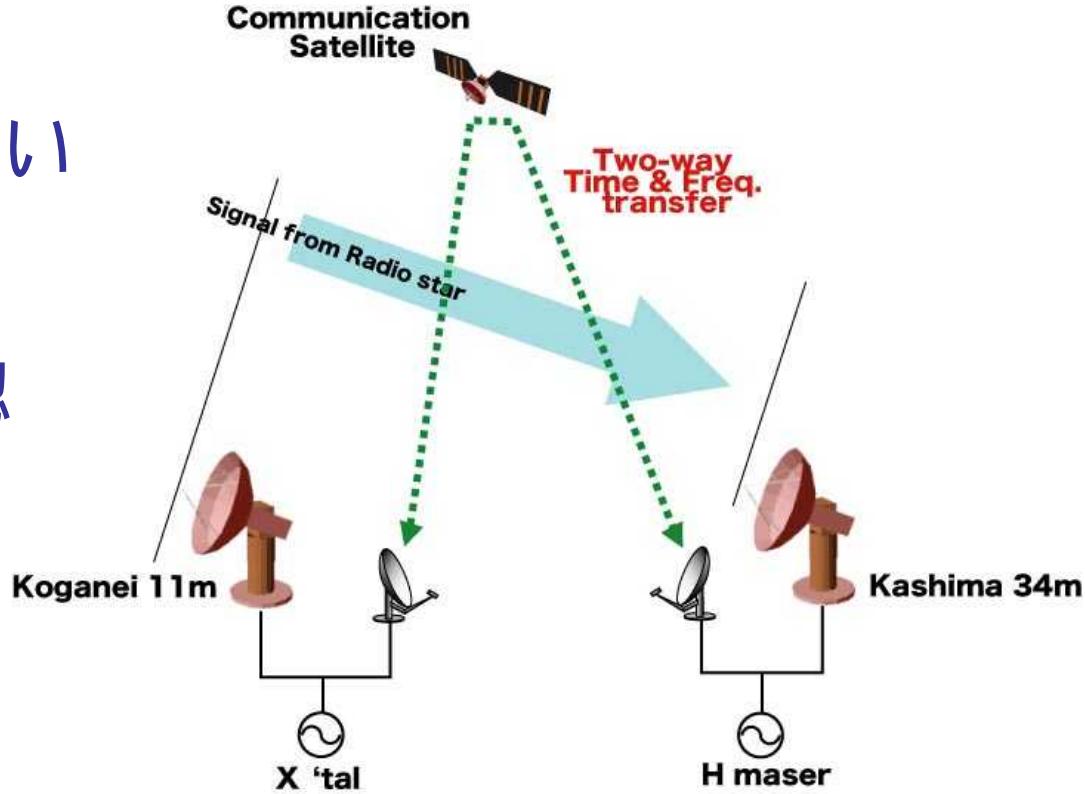
今後の予定

✓ 測地解析

- » 24時間実験を行い
基線解析解析

測位精度の確認

✓ 静止衛星を用いた実験



*Thank you very much
for your attention.*

本研究は科研費(21241043)の助成を受けたものである。